

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福壽苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	平成23年1月4日	評価結果市町村受理日	平成23年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.w.nc.or.jp/kai/gosi/p/nfonatipublic.do?JCD=2172101095&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様・ご家族様共に安心して頂ける終身対応型のグループホームです。認知症であっても、最期まで「人として生きる姿」を保てるよう、施設理念をスローガンにし、スタッフ一同支援させて頂いています。
また、特浴室があり、看護体制も確立している為、重度の方も受け入れ可能なホームです。現在、介護度の高い方が多く、活動に制限が出てきてしまいますが、月に一度は音楽療法を兼ねた誕生会を開き、懐かしい歌に触れてもらい楽しい時間を過ごしてもらっています。
また、保育園や自治会の行事に参加・運営推進会議の際にイベントを行う等、地域・家族とのつながりを大切に考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複数施設の母体会社として社歌を作成し、全職員が利用者と共に斉唱し日々の生活の励みとしている。自己評価を全職員で検討し、外部評価に望む姿勢や家族アンケートを実施し常に自分たちが提供するサービスを振り返り、前向きな方向性を全職員が一丸となって努力している。どんなに重度の方も住み慣れた地域での生活を支える為に、看護体制を整え特殊浴槽を配備し、最期の看取りまで安心して過ごせる配慮で「心のやすらぎ」を「心身(こころ)」ゆくまで過ごせるホームである。全職員が働きやすい職場を目指し、社歌披露会には職員家族も招き、ホーム行事には職員家族の協力が得られ和やかで温かな雰囲気である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その方が生きてきた暮らしを継続できるよう、その人らしい生活を支援させて頂く為に、『利用者様本位「できる力で生き活きと！！」笑顔あふれる江並「福寿苑」』と理念をスローガンにし、全職員取り組んでいます。全体会議で唱和し、確認しています。	理念をフロア・階段・玄関等の各所に掲示し、常に全職員が意識付けてホーム心得と共に共有している。月1回の全体会議で職員が交代で理念を唱和し、日々の介護に活かす実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地元保育園の行事にできる範囲内で参加させていただいています。運営推進会議に自治会長様・民生委員様・地域の方をお招きし、情報交換に努めています。	自治会に加入し地域行事へ出かけたり、隔月開催の運営推進会議に自治会長や民生委員が参加している。地域とのつながりを深める努力はしているが、日常的な地域との交流に至っていない。	近隣に民家が少なく住民との接点は限定されやすいが、様々な機会をつくりホーム側から地域とのつながりを広げる努力に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップ・中学生の職場体験を引き受けている。地域の方にも認知症の方を理解してもらえよう、こちらから出かけるだけでなく、施設内の行事にも参加して頂けるよう働きかけていきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの方に少しでも参加して頂けるよう、会議を事業所の行事に合わせ行っている。消防署・交番にも参加を呼びかけ、情報共有に努めています。会議の結果は、全職員参加の全体会議で報告・話し合いをし、サービス向上に努めています。	ホーム行事に合わせ家族の参加を呼びかけ、開催日の曜日を委員に合わせる等の配慮をしている。消防署・警察署の参加を得て、幅広い分野から助言指導が得られサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類等の提出時や、運営推進会議の際に、サービスの取り組みについての報告や相談をしている。市が主催する研修会に積極的に参加し、情報交換に努めています。	運営推進会議での情報交換のみならず、研修会・事業者会・ケアマネジャー会・グループホーム会等の様々な場で相談や助言を得る機会があり、協力関係を築く努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	国道に面しているという立地上、生命の安全性を最優先する為に、玄関を施錠させてもらっている。鍵をかける弊害については全職員が理解しており、外へ行きたい方・玄関に立たれる方に対し、個々に外気に触れてもらう・散歩等の対応をしている。	国道に面した場所であり、入り口は施錠しているが、身体拘束をしない介護を心がけている。外出願望が強い利用者には、職員と一緒に納得するまで付き添い、車で迎えに行く等の安全面にも配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催の虐待防止関連法の研修に参加し、全体会議の勉強会につなげ、全職員が再認識できる場を設けている。ご利用者様一人一人のペースに合わせた支援ができるよう、職員は日々努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の勉強会で全職員が制度を理解するようにしている。 現在1名の入所者の方が、日常生活自立支援事業を利用されてみえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を用い、ポイントを絞り説明をしている。 十分納得をして頂いた上で、署名・捺印をもらっています。また、不明な点等があれば、いつでも聞いてもらえるよう伝え、聞きやすい環境づくりに努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を、玄関の入口に設置し、気軽にいつでもご要望等を投函して頂けるようになっている。2ヶ月に1度の運営推進会議時に、地域住民からのご意見等をお聞きし、また全スタッフには、全体会議や連絡ノートで伝達し、サービス向上につなげている。	意見箱への投函は少ない為、面会時や電話で直接聞いたり、月一回手紙送付時に意見を求める努力をしている。家族アンケートを実施し意見や結果を家族に返し、意見を運営に反映させる工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体カンファレンス時、スタッフの意見を反映させ、話し合える機会がある。 普段より、スタッフは意見を何でも言える関係となっており、その場で検討し、解決する事も多い。	月1回の全体会議は参加しやすい夜間帯で出勤とし、夜勤者以外はほぼ全職員が参加している。日頃から上下関係に左右されず何でも言いやすい雰囲気があり、前向きな意見には即実行し再検討する体制になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の家庭環境に合わせた労働時間になっている。また、資格取得の為に、研修案内はスタッフ全員が閲覧できるようになっている。 キャリア アップ システムが実践できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、一人一研修は参加してもらい、向上心を持って働けるような体制になっている。 新人スタッフに関しては、試用期間を設け、ご利用者様のペースに合わせた支援ができるよう育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、市や事業者会の研修会に参加し、同業者との情報交換や交流を図っている。 他の事業所の取り組みについて、施設の活動に取り入れたり、質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と共に施設内を見学してもらい、雰囲気を感じてもらおうようにしている。見学に来られない方に関しては、管理者・看護師、職員が訪問させて頂き、不安を取り除いてからの入所となるようにしている。入所されてからは、何でも話せる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、まず見学に来て頂き、雰囲気を感じてもらおうと共に、自宅を訪問させて頂く等し、ニーズを少しでも聴きだせるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず入所と考えるのではなく、担当のケアマネジャーに相談させて頂いたり、ご本人・ご家族様が本当に困っていらっしゃる内容を確認してから契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという認識をスタッフは共有しており、普段からご利用者様に教えてもらう場面も多い。洗濯物を一緒にたたんだりし、日常的に会話を多く持てるような環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たちスタッフよりも家族の方と過ごしてきた日々はもちろん多く、その絆は計り知れないものであり、面会時や運営推進会議の際に、ご意見等をお聞きし、ケアに反映できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	運営推進会議の際にイベントを行う等、家族や親類、知人に参加を呼びかけ、ご本人様が大切にされてきた関係を保てるように働きかけを行っている。 なじみの場所へ出かけられるよう支援していきたい。	親族等の来訪を歓迎し、職員の家族を孫のように接する利用者もある。ホームに入居され家族関係が良好になった方もあり、生活歴や生活習慣が継続できるような支援を職員は心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のご利用者様のADLや性格を参考にしながら、ご利用者様同士の会話を楽しめるような席の配置にし、なじみの環境により、お互いに安心感を持ってもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で過ごされていたご利用者様の生活リズム等の情報提供に努め、他施設・病院へ移られても混乱が少しでも軽減できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おやつや飲み物を選んでもらえるようにするなど、ご利用者様の希望や意向の把握に努めている。 意思疎通が困難なご利用者様には、なるべく意向が反映できるような場面作りに努めている。	言葉で意思を伝達できる利用者は少なく、選択肢を与え答えやすくしたり、指差して意向を聞きだす工夫をしている。顔の表情・声の出し方・姿勢等を見逃さず、日常生活の様々な場面で意向を把握する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方や担当されていたケアマネージャーより、今までの暮らしや価値観等をよくお聞きし、大切にされていた物などはお持ち頂き、安心して過ごしてもらえるような環境づくりに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や会話の中から、小さな心身状態の変化を見逃さないようにしている。 全体のカンファレンス時に、スタッフ間で検討事項を話し合い、現状を全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リスクポイントシートを活用し、個々のご利用者様の目標の達成度や状態を把握すると共に、全体カンファレンスで話し合いながら、プラン作成をしている。 ご家族・関係者の方には、面会時・行事の際に気づきや要望をお聞きしている。	毎月のモニタリングは全職員で行い、身体状況に合わせ3～6ヶ月にて担当者・看護師・ケアマネージャー・フロアリーダーが計画を検討している。家族には面会時や手紙等にて意見を聞き計画に組み入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな出来事でも記録に残し、申し送りノートや連絡ノートを活用する事により、情報を共有できるようにしている。 プラン評価は、カンファレンス時に話し合った内容を基に担当スタッフがそれぞれ記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の心身状況に合わせたケアができるよう努めています。 体調が悪い方には、食事形態をお粥にする等工夫したり、入浴は一般浴より、特浴に切り替えて機会を確保する等の配慮をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際、自治会長様、民生委員様、駐在所員様、消防署員様に情報を頂いたり、協力関係をお願いしたりしている。 地域の方にも会議に出席して頂けるよう、働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回、連携医師による往診があるが、入所前までのかかりつけ医やご希望に応じ他の医療機関を受診する事も可能である。 夜間であっても、医師の指示により、看護師が対応したり、翌朝受診したりと体制ができています。	希望するかかりつけ医に家族と一緒に受診している。受診結果を看護師が聞き、職員全員で共有している。協力医の定期的な訪問診療もあり、緊急時は24時間対応できる体制としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員は相談しやすい環境ができしており、どんなに小さい心配事でも相談でき、処置等の対応ができるようになってきている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適宜、面会させてもらい、様子を確認したり、ご家族様と連絡を取るようにはしたりしている。 入退院時には、サマリー・電話等を用い、情報交換し、ご利用者様が安心して医療や介護が受けられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご家族様に終身介護についての希望を確認し、同意書をとっている。 異常や変化があった場合は、その都度ご家族に説明し、意向を確認し、その旨をかかりつけ医・スタッフ間で共有した後、対応している。	ホーム独自の看取り指針を作成し、それに基づき入居時に同意を得て、医師、職員で看取り介護計画を作成している。状態の変化に応じて1週間ごとに家族に説明、意思を確認し、家族と共に看取る体制がある。希望により家族の宿泊も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフは一年に一回、救命講習を受けてもらい、実践力を身につけるようにしている。 個々のご利用者様の異常時指示書が作成されており、介護職員が落ち着いて対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年の8月、隣に新しくグループホームができ、非常時の連絡通路ができた。 1年に2回、ご利用者様にも参加して頂き、避難訓練を行っている。 運営推進会議の際、地域の方にも協力していただけよう呼びかけている。	消防署の指導を得て、利用者と一緒に3階から非常滑り台を使用した避難訓練や夜間想定訓練を行っている。家族や地域の方も参加して、救命訓練講習を受講し、地域の防災意識の向上にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話しかける際、ご利用者様のそばへ行き、その方の目線を合わせるようにし、尊厳の維持・プライバシー保護に努めている。 トイレ誘導の声かけも、他の利用者に気付かれないように配慮している。	利用者に敬意を払い、トイレ誘導時は目立たないような声かけや対応をしている。表札は希望に合わせて苗字や名前としている。個人情報に関する書類は施錠ができる事務所で保管し、人目に触れない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時・15時のおやつ時には、二者択一にし、また着替え時は、着られたい服をお聞きする等、自己決定できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日・その時のご利用者様のコンディションに左右される事はあるが、なるべくご本人様が自由に過ごせるような体制作りができるよう、スタッフ間で協力している。 起床・就寝時間は生活リズムを崩さない程度に個々のご利用者様に合わせ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用されたい服をご本人様にお尋ねし、ご自身で選んで頂けるようにしている。 難しい方に関しては、その方にあったスタイルをご家族様等にお聞きし、その人らしさを保てるようお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた食事をお出しするようにしている。 重度者が多い為、調理は難しい状態であるが、食器を拭いたり、布きんをたたんで頂いたりしてもらっている。	身体状況に合わせて食事の形態を変えたり、時間をずらして対応している。食器やお盆を拭いたり、野菜の下準備等を利用者と一緒に行っている。経口摂取が困難な人も同じフロアにて食事を楽しめる配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲みこみが困難になられた方には、水分のあるものに、トロミをつける・主食はお粥に、副食はキザミにしたりと個々に合った対応をしている。 少しでも、経口から食物を摂ってもらえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方には、お声をかけさせて頂き、ご自身で行う事が難しい方に関しては、口腔ケアスポンジを使用したり、できない部分をお手伝いさせて頂きながら、毎食後口腔ケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、時間やその方のご様子を見ながら、声かけや誘導をしています。なるべくトイレに座ってゆっくりと排泄して頂けるよう取り組んでいます。	排泄チェック表をもとに時間や様子を見計らいトイレで排泄できるよう声かけをしている。夜間は利用者に合わせて排泄介助をしている。交換したオムツは新聞紙で包み、臭いへの配慮や人目に触れないよう屋外へその都度廃棄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ等に、バナナやヨーグルトを使い、ご利用者様によっては、センナ茶を飲んで頂いたり、腹部をマッサージさせてもらったりし、自然な排便となるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めているが、ご希望があれば、毎日の入浴も可能である。重度者も多い為、一般浴室に昇降機が設置しており、また特浴室も設けてある為、個々にあった入浴方法で入浴して頂ける。時季によってゆず湯等も楽しんで頂けます。	身体状況により特浴、昇降機がある一般浴を利用し、脱衣所の温度に配慮し安全な入浴を心がけている。入浴を拒む利用者には、対応する職員をかえたり、日にちや時間をおき気分を変える工夫をしている。仲の良い方同士と一緒に入浴できるようにもしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、昼間に仮眠を取り、休息できるよう配慮をしている。夜間、眠られなかった方に関しても、昼間に仮眠を取って頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のご利用者様が服用されておられる薬の目的・副作用・用法・用量についての冊子が作っており、スタッフがいつでも確認できるようになっている。上記の内容を理解した上で、服薬の支援と症状に変化がないかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでもらったり、食器類を拭いてもらったり、日常生活に役割を持ってもらえるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのコンビニエンスストアに、買物に行ったり、近隣を散歩したりしている。自治会の行事に参加し、地域と交流できるようにしている。	季節により地域のお祭りや近くの堤防の花見等の散歩に出かけている。スーパーやコンビニに買い物に出かけたり、散歩に行く利用者は限定しており、日常的な外出ができていない。	利用者のストレス発散や季節感を体で感じるため、また、地域の方と接する機会を得るためにも、できるだけ戸外へ出かけることを期待したい。

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ってみえないと不安になられる方もおみえになり、そういう方に関してはご家族様のご了承を得ながら、ご本人様自身で所持できるようになっている。 買物を希望されれば、所持されているお金で買物同行もできる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、いつでも電話できる体制になっている。 手紙に関しても、同様である。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関等に、季節の花や飾りをしたり、リビングには、畳敷きの場所やソファを置き、ご利用者様が自由に過ごせるような環境づくりをしている。 冬場等の乾燥している季節には、加湿器を使用し、少しでも居心地の良い空間となるよう空調管理にも気をつけている。	リビングに畳のコーナーやソファを置き、自由に会話を楽しんだり、テレビを見て思い思いにくつろげる工夫をしている。お祭りですくった金魚を育てたり、壁面の飾り付けで生活感や季節感を採り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ側にソファが設置してあり、一人もしくは数人で過ごせるようにしている。 個々のご利用者様の落ち着いた過ごせる場所を日頃から把握するようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室か洋室かを、ご利用者様の身体状況や体調・好みに合わせ選べるようになっている。 入所される前に、ご利用者様が落ち着いて生活して頂けるよう、なじみの物をお持ち頂いても良い話はしている。	利用者の希望により畳を敷き和室作りをしたり、ぬいぐるみや写真を飾りその人らしく暮らせるようにしている。昔風のタンスや段ボールに布を貼ったオムツ入れ等を職員が用意し、落ち着いて暮らせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の行動を制限してしまわないよう、障害物を置かない・床に段差をつけない等、安全な環境づくりに努めている。			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福壽苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	平成23年1月4日	評価結果市町村受理日	平成23年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.w.nc.or.jp/kai/gosi/p/nfonat/onPublic.do?JCD=2172101095&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その方が生きてきた暮らしを継続できるよう、その方らしい生活を支援させて頂く為に、『利用者様本位「できる力で生き活きと！！」笑顔あふれる江並「福寿苑」』と理念をスローガンにし、全スタッフで取り組んでいます。月一回の全体会議で唱和しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の秋祭り等の行事にできるかぎり参加させてもらっている。 また、地域の保育園の運動会等に参加させて頂き、交流できる機会を多くもてるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップ・中学生の職場体験を受け入れている。 地域の方にも認知症の方の理解をして頂けるように、施設内の行事に足を運んで頂けるような働きかけをして行きたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長様・民生委員様・地域の方・ご家族様に参加を呼びかけ、運営推進会議を行っています。 会議で頂いたご意見は、全体会議で検討し、サービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に、高齢介護課にアクシデント等の近況報告をし、ご意見やご助言を頂いている。 市が主催する研修会にできるだけ参加し、情報交換に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	国道に面しているという立地上の問題から、生命の安全を最優先し、玄関を施錠させてもらっている。鍵をかけるという弊害は全スタッフが理解しており、玄関に来られ、出たいとおっしゃられるご利用者様には、話を聞いたり、一緒に外へ出て散歩をしたりしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催の高齢者虐待防止関連法についての研修会に参加し、その報告を全体会議の際の勉強会で行い、全スタッフに周知徹底している。 ご利用者様一人ひとりのペースに合わせた支援ができるよう、スタッフは日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の際の勉強会で制度を理解するようにしている。 3階ユニットでは、制度を利用されておられる方は、おみえにならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用い、内容(利用料金・医療との連携・看取りについて等)を詳しく説明し、理解をして頂いた上で、署名・捺印を頂いている。なるべく不安を軽減できるよう、事前にご自宅や入所されている施設を訪問し説明させて頂いたり、当施設を見学してもらったりしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際、事故等の状況や対応方法を報告し、出席者より、ご意見をお聞きするようになっている。また、ご家族様全員に施設に対するアンケートを実施し、結果を全スタッフで話し合い、支援に反映させている。面会時に気軽に何でも話して頂けるような環境づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフは何でも話し合える環境ができしており、その都度、相談し解決できる体制となっている。 毎月の全体会議の際、スタッフの意見を反映させ、話し合える機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の家庭環境に合わせた労働時間になっている。 資格取得していく為にも、研修案内は、スタッフがいつでも閲覧できるようになっている。 キャリア アップ システムが実践できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、スタッフに応じた研修機会を、得られるようにしている。また、全体会議の際に報告する場を設け、全スタッフが内容を共有できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市が主催する研修に参加した際、同業者との情報交換や交流をしている。 他事業所の良い所は、施設の活動に取り入れたり、ケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と共に、まず施設を見学してもらい、雰囲気を感じてもらい、見学に来られない方に関しては、管理者・看護師、職員がご自宅や入院・入所先へ訪問させて頂き、少しでも不安を取り除いてからの入所となるようにしている。入所されてからも、話しやすい環境となるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは見学に来て頂き、雰囲気を感じてもらいと共に、ご自宅等を訪問させて頂き、これまでのご家族様のご苦労や、サービス利用状況等のお話をお聞きし、ニーズを少しでも引き出せるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず入所と考えるのではなく、担当のケアマネージャーに相談させて頂いたり、ご本人様・ご家族様が本当に困っていらっしゃる事は何なのかを確認してから契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は人生の先輩であるという考えを全スタッフが共有している。 洗濯物をたたんだり、作業を一緒に行う際、会話をしながら、同じ目線で、たくさんの事を感じ取れるように心がけている。また、その機会を多く持つようにしていきたいと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所される前の暮らし方や介護の方法、ご本人様の価値観等をお聞きし、支援方法について、共に考えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベントを行う際、知人や親類、大切にされてきたご家族様に参加してもらえるよう、働きかけをしている。 なじみの場所へ出かける事が、なかなかできていない状況にある為、今後、途切れてしまわないように努めていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のご利用者様のADLや性格を参考にしながら、ご利用者様同士の会話を楽しめるような席の配置にし、顔なじみの環境により、お互いに安心感を持ってもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご自宅や他の施設に移られても、混乱が少しでも減らせるように、当施設での生活リズム・支援方法等の情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、ご利用者様の表情や言葉から、思いや意向を察するように努めている。小さな事でも、選択して頂けるように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方や担当されていたケアマネージャーより、今までの暮らし方や価値観等をお聞きし、大切にされていた物はお持ち頂き、安心して過ごして頂けるような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のご利用者様の生活リズムや、その日に起こった小さな出来事でも記録に残し、把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リスクポイントシートを活用し、現在の心身状態を把握できるようにしている。全体カンファレンス時にプランに対する達成度も確認している。 ご本人様・ご家族様には、日頃の関わりの中で、思いやご意見をお聞きし、反映させるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のご利用者様の食事・排泄・エピソード等を記録や連絡ノートに残し、いつでもスタッフは確認できるようにしている。 勤務を開始する前は、目を通してから、業務に入る事を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の心身状況に合わせたケアができるように努めています。 体調が優れない場合、食事をお粥に、また入浴ですと特浴に切り替えて対応させてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際、自治会長様・民生委員様・消防署・駐在所の方へ出席して頂き、情報交換している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回、協力医による往診があり、必要に応じていつでも相談できる関係となっている。夜間でも医師の指示により、看護師が対応できる体制である。入所前のかかりつけ医や他の医療機関も気兼ねなく受診する事ができる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護師を配置し、常時連絡が取れるようになっている。看護職員と介護職員は相談しやすい環境ができており、どんなに小さい事でも相談し対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は頻回に面会させて頂き、医療関係者との情報共有に努めている。サマリー・電話等で情報交換、またご家族様とも回復状況をお聞きする等し、ご利用者様が安心して医療や介護が受けられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終身介護が出来る旨をお伝えし、経口摂取や自力歩行が困難になられても、最期まで看取りが可能である。延命希望については説明し、書面にて同意を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフは一年に一回、救命講習を受けてもらい、実践力を身につけるようにしている。個々のご利用者様の異常時指示書が作成されており、介護職員が落ち着いて対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年の8月、隣に新しくグループホームができ、非常時の連絡通路ができた。1年に2回、ご利用者様にも参加して頂き、避難訓練を行っている。運営推進会議の際、地域の方にも協力していただけるよう呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時にカーテンを閉めたり、ドアを閉めたり、プライバシーの保護に努めている。 個人情報に記載されたカルテ等は事務所保管とし、他者の目にふれないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをする際は、「〇〇さん、どうされますか。」とお聞きしてから、支援させて頂いている。 意思表示が困難な方に関しても、必ず声をかけ、表情を読み取り、些細な事でもご本人様が決められるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを崩さないように、個々のご利用者様に合わせて対応している。 自室にて休息を取る・取らない等は、ご本人様の意思にお任せしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台には、くしやブラシ等を用意させて頂き、ご自身でして頂けるようにしている。手拭等も、いつでも使って頂けるように、準備している。 着用される服は、ご本人様になるべくお聞きするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に、食べたいものをお聞きし、おっしゃられた物をお出ししたり、個々の好みに合ったメニューにしたりしている。 食事後の後片付けを、ご利用者様と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時・15時のおやつ時には、ミルク・コーヒー・紅茶・ココアなど、また、食事の際もお茶を飲んで頂けるようお声をかけ、なるべく水分を摂って頂けるようにしている。嚥下が困難になられた方には、トロミをつける等工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でうがいや歯磨きができる方にはお声をかけ、難しい方に関しては、口腔ケア用のスポンジを使用し、毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のご利用者様の排泄パターンを把握し、時間をみてお声をかけさせて頂いている。なるべくトイレに座り、ゆっくり排泄してもらえるよう支援させて頂き、紙パンツ・パットについてもご本人様に合った物を使用してもらうようになっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最初から下剤を使用してしまうのではなく、食べ物で工夫したり、腹部マッサージをしたりし、なるべく自然な排便となるようになっている。毎朝、ラジオ体操を行っている。どうしても場合は、センナ茶や下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴と特浴がある。一般浴にも昇降機が設置しており、個々に合った入浴方法で入浴できる。四季によっては、ゆず湯等も楽しめる。仲の良い方同士、一緒に入浴することもできます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間は、個々に合わせた対応をしています。夜間、眠られなかった方に関しては、昼間休んで頂く等の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のご利用者様別に朝・昼・夕・眠前薬の内容が記載されたファイルがあり、全スタッフがいつでも確認できるようになっている。内服時は、スタッフが二重チェックをし、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙や貼り絵、音楽療法等、できる能力を引き出せるよう工夫をしている。外出はなかなかできていない状況にあるが、気分転換として近所を散歩する等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な方に関しては、車椅子を使用し、近所を散歩している。なるべく近隣の方と触れ合えるように、コースを考えている。家族の方と買物やお食事に行かれたりと、ご家族様の協力が得られる方もおみえになる。		

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っていないと不安になられる方に関しては、ご家族様の了承を得て、所持する事もできる。 買物は、スタッフが同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、いつでも電話できる体制である。 手紙に関しても同様である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、ソファがいくつか置いてあり、個々のご利用者様にとって居心地の良い場所で、自由に過ごして頂けるようになっている。 季節に応じ、季節を感じられるような飾り付けに心がけ、いつでも快適に過ごして頂けるよう室温・温度等の空調管理に気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角に畳敷きの場所やソファを置き、お一人でも、また気の合うご利用者様同士でも、くつろいで頂けるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の体調、なじみに合わせ、和室か洋室かを選べるようになっている。 全ご利用者様に、落ち着いて生活して頂けるよう、なじみの物や写真を飾って頂いても良い話をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物を置かない、床に段差をつけない。また、認知症により、不安や混乱がある場合は、速やかに対象物を移動・撤去し、ご利用者様が安全・安心して生活できるように努めている。		